

# ACT NEWS

エー・シー・ティー ニュース

こんにちは、ACTニュース編集部です。このACT NEWSは、湯河原町の小学校・中学校で実施されているACT(アート・コミュニケーション・トレーニング)という活動を保護者の方や町の方にも知ってもらうための新聞です。ついに今回でvol.5となりました。今年はコロナの影響で日程や内容を少し変更していますが、顔を合わせればいつもと変わらないやりとりにホッとします。会えるって、やっぱりいいですね。

ACT NEWS 第5号 2020年10月発行 発行元：湯河原町教育委員会・特定非営利活動法人 まなびとくらし

## ACTってなーに？

2014年度にスタートしたアート・コミュニケーション・トレーニング (ACT、旧称SST) は「人と人とが関わりながら生きていくために」をテーマとする、湯河原町発のコミュニケーション教育の一環として進められています。

描く、作る、聞く、話す、書く、そして考えるといった様々な「芸術活動」を通じて、自分自身や他者、そして社会との関わり合いの中で生きていくための力を学ぼうとするプログラムです。

このプログラムでは試行錯誤や紆余曲折そのものをクリエイティブな行為として推奨しています。またここでの個人作業・共同作業が、目標(課題)を達成するための手段ではなく、作業することそれ自体に価値があるという考えも含まれています。

そして、この時間に生じる生徒一人ひとりのトライ・アンド・エラーを共感をもって支持し、そのトライアンドエラーを創造性としてクラスや先生方と共有しています。

他者との比較による自信(=優越感)ではなく、自分への信頼によりGOサインを出し、目の前にあるものに挑み、たとえ失敗しても自分を認めてあげられること。それらを繰り返していくことで自分自身に信頼感が生まれてくると考えています。

「上手くいく根拠はないけれど、やってみて良い」と自分に思える。

ここではその信頼感を自信と呼びたいと思います。その過程で「身をもってわかること→知る」、つまり、実体験から得た知恵が意識され、蓄積され、それらが次の機会に活かされることこそが「成長していくこと」と言えるでしょう。

COVID-19(新型コロナウイルス感染症)によって生活様式の変容を余儀なくされている現在において、この「人と人とが関わりながら生きていくために」という主題はこれまで以上に重要なものになっていくと考えられます。

それでは令和2年度のACTニュースをはじめます。

## ガーベラの観察画



2020年7月8日(水)の8組のみなさんと。

待ちに待った今年度のACTは8組のみなさんとスタートを切りました。新入生のみなとも初顔合わせでしたが、いつものようにあたたかく迎え入れてもらいうれしかったです。

さて、今回実施したのは「ガーベラの観察画」です。一人一輪ずつ好きなガーベラを選んだら、虫眼鏡を使って細部をよく観察。虫の目線で小さな発見をくりかえしながら、オイルパステルを使って描いていきます。

作業が始まるとものすごい集中力。そして何よりすばらしいのは、みんなそれぞれが「じぶんのガーベラを描いている」ことでした。誰かに褒めてもらうための絵ではなく、描いているじぶんがたのしくなること、気になること、こうしたいと思うことを見つけて、そこにエネルギーを向けていることがはっきりとこちらに伝わってきます。とても真剣で、でもたのしそうで、のびのびと、いきいきとした表情がたくさん見られました。

## 描くをかさねる



3年生の初回は「描くをかさねる」でした。二人一組のペアになりオイルパステルで一つの絵を描くのですが、いくつか手順が決まっています。まず、お互い1本ずつ順番に線を引いていきます。ポイントは、相手の線と自分の線を交差させることです。それを計6本描きます。次に、交差線によって偶然生まれた形(面)に色を乗せていき、時間が来るまで色を重ね続けます。この時も相手が塗った面の上であっても、構わず色を乗せていきます。つまりこの絵は「忖度しないで描く」ということです。どうすればこの絵はよくなっていくかということに集中してねと伝えてから作業をしてもらいます。

この回で一番印象的だったのは、みんなの丁寧さでした。これはどの回にも共通しているのですが、あまりやりたくなさそうな人や、集中していない人がいつも必ず一定数います。みんなその時の体調とか気分とか色々ありますから、これは当然のこと。でも、今回はどのクラスでもほぼみんな、すごく丁寧に作業をしてくれていましたし、楽しそうにしている人がとても多く、実施後の先生方とのシェアの場でも話題になったほどです。また、仕上がった絵は調和がとれているものが多いなとも感じました。本来は、「忖度しない」という難題に挑む作業なのですが、結果的にはみんなの調和性というか、親和性みたいなものがよく伝わってきて、「この感じは大事にした方がいいですね」と大人たちがみな頷く回でした。



2020年7月21日(火)の3年生のみなさんと。

## あそんだ地図

1年生の初回は「あそんだ地図」です。小学生だった頃など、過去に「誰と、どこで、どんなあそびをしたか」を思い出して自分なりの地図として描き起こし、最後はそれを3～5人で発表し合います。

見ていて印象に残ったのは、今年の1年生は「描いたものをグループでシェアしてみて」と伝えても、「えー！やなんだけどー！」という声が少なかったこと。いつもは結構いるんです笑。あと、定規を使って描く人が少なかったこと。ここ数年は、几帳面に全ての線を定規で描こうとする人が多かったのですが、なぜか今年はフリーハンドの人の方が多かった。などなど、年毎の比較で一見何でもない事柄からその学年のカラーがみえてくることもありますし、「シェアでクラスのコと話せてよかった」というような個人の感想から、そのコのいまが見えてくることもあります。

ちなみにこのワークは想像以上に難しいので、うまく描けない・話せないコもたくさんいます。そして、そういう「できない」とか「うまくいかない」という場面を作ることも大事なことでと考えているので、「できるようにしてあげる」ことは原則しません。「できない」と感じる機会を奪わないよう心がけています。



2020年9月4日(金)の1年生のみなさんと。

## ギミー シェルター



3年生最後のACTでは毎年クラスでひとつのダンボールハウスを作っていますが、今年は「一人ひとつ、最高に居心地が良い自分用シェルターを作ろう」という内容に変更となりました。シェルターと聞くと「逃げ場」というようなイメージが思い浮かびますが、それは広く捉えると「安心できる場所」でもあります。自分の置かれている環境がいつも安心できる場所とは限らないけれど、自分が入るくらい小さなスペースなら工夫次第で案外作れそうじゃない？というメッセージを込めて実施しました。今回のように、体育館のような広い空間で個々のスペースにゆとりがあり、かつ自由度の高い活動をする場面では、それぞれの身の置き方に違いが出てきます。

そもそも、ACTの活動を見守る大人は成績をつけるために生徒を見ているわけではないので、気分が乗らなさそうにしている人がいたら様子を見つつ、そのまま見守ることの方が多いです。生徒さんたちはそれを何度も体験しているので「ACTはがんばらなくていい。自分の思いをそのまま表現すればいい。」ということが伝わっているのでしょうか。それがベースにあるので、作業中は一人で黙々と作り込む人、友達と協力して作る人、苦手だけどなんとか形にしようとする人、まったく関係ないものを作っている人。みんなそれぞれでしたが、全員が同じ場所、同じ時間を共有して取り組んでいる空間には、いつもと変わらないダイナミックなエネルギーがうごめいていました。みなさん、暑かったよね…お疲れ様でした！



2020年9月7日(月)の3年生のみなさんと。

# 立体かぼちゃ



2020年9月25日(金)の8組のみなさんと。

8組の2回目は、タイトルの通り立体のかぼちゃを作りました。前回のガーベラは絵でしたが、今回は立体です。よく見ることに加えて、ゴツゴツした感触を確かめたり、半分に割って甘い匂いをかいたりしながらかぼちゃを表現していきます。工程はというと、まず新聞紙で形のベースを作ったら、次は実に皮を貼りつけるように色とりどりの和紙で色付け

ていく…のですが、この和紙を貼る作業にハマる人が続出。水のりを筆にたっぷりつけて和紙の上から塗りながら貼るのですが、これがまた水飴で表面をコーティングするような気持ちよさがあり、最後は筆を置いて手でその感触をたのしむ人も出るほどでした。最後は恒例の鑑賞会でしたが、今回は初めて一人ずつ前に立ち、作品を見せながらじぶんがどんなことを意識しながら作ったか、どこをがんばったかなどを発表してもらおうというチャレンジもありました。他の人の作品を見たり、話を聞きながら「おー!」「すごい!」と伝え合いながら、みなさん充実された表情でした。



## ACT GALLERY

載せきれない写真シリーズ。



描くをかさねる



立体かぼちゃ



あそんだ地図



ガーベラの観察画



ギミーシェルター